



平成 30 年 10 月 18 日

報道機関 各位

国立市役所市長室広報・広聴係

教育・文化・経済・観光等における両市の親善と振興をめざして
**「国立市・北秋田市友好交流都市協定」
を締結しました**

国立市は長年、旧合川町（現北秋田市）と児童交流を行ってきました。平成26年には、合川地区の伝統行事である「万灯火」を国立市で「国立まと火」として再現したことにより、さらなる交流を深めてきました。

また、平成27年の「災害時における相互応援協定」の締結、平成29年の「国立市と北秋田市の交流に関する共同宣言」を経て、本日、10月18日に「国立市・北秋田市友好交流都市協定」を締結しました。

本協定の締結により、今後は、教育・文化・経済・観光等の分野において、広く市民相互の交流を図り、両市のさらなる親善と振興をめざしていきます。

このことを、市内外の皆さまに広く周知したく、ぜひ、貴媒体での取材・掲載方、お願いいたします。

【永見理夫国立市長のあいさつ】

国立市と北秋田市との交流が、「友好交流都市協定」の締結というひとつの大きな節目を迎えたことを、大変喜ばしく感じております。これから新しいステージを迎える国立市・北秋田市の交流が、双方の市民にとって、お互いの市の魅力を存分に感じていただけるようなものとなり、それがひいては自分が暮らすまちの魅力を再発見できるようなものとなれば、素晴らしいことだと思います。

【津谷永光北秋田市市長のあいさつ】

本日は、ここ秋田県立北の杜公園という、緑豊かでまさに北秋田市を象徴するロケーションの中で、「国立市・北秋田市友好交流都市協定」の締結式を執り行うことができましたことを、心からうれしく思っております。ぜひとも、これまでの児童交流はもとより、教育・文化・産業の各分野でもお互いの持つ魅力や特徴を最大限生かしながら、両市の市民にお互いの都市のことを知ってもらい、行政レベルの交流のみならず、市民レベルでの交流を深めていけるような関係を築いていきたいと考えております。



▲国立市・北秋田市の友好交流都市協定書。



▲「国立市・北秋田市友好交流都市協定締結式」にて協定書を交わす北秋田市の津谷永光市長（左）と国立市の永見理夫市長（右）。

【北秋田市の紹介】

平成17年3月22日に、北秋田郡の^{たかのすまち}鷹巣町・合川町・^{もりよしまち}森吉町・^{あにまち}阿仁町が新設合併し、誕生した市。秋田県の北部中央に位置し、県内で2番目に面積が広く、県全体の約1割を占める。その中でも山林等の占める比率が高く、県立自然公園に指定されている「^{もりよしざん}森吉山」をはじめとする優れた自然景観や山岳溪流を特徴とする、緑あふれる自然豊かな都市である。

「^{いせどうたい}伊勢堂岱縄文遺跡」は国内唯一の4つの環状列石が確認された遺跡で、その学術的価値の高さから平成13年に国の史跡に指定されている。

マタギ発祥の地としても有名。

問い合わせ

国立市政策経営部 政策経営課政策経営係
TEL：042-576-2111（内線228）